

# 大雪区域畜産基地建設事業にかかる経営上の諸問題

川上 隆 士  
(上川町農林課)

初めに大雪区域畜産基地建設事業の概要について紹介致します。

## 1. 区域の概要

上川町は北海道のほぼ中央部に位置し、気候は冷涼で多雪地帯である。このため農耕期間は短かく、放牧は5月下旬より10月下旬までの5ヶ月間に限定されているなど気象条件は劣悪である。しかし本町は広大な山林を有しているところより、未利用地の開発と水田転換による草地化を図り、林地の下草の活用を行い、肉用牛繁殖農家群を創設することとして畜産基地事業がスタート致したものであります。本事業では、未利用地及び水田転換よりの造成草地 643 ha と、林間放牧地 280 ha (計画は 1,000 ha) とを使い、繁殖成牛70頭規模の大型肉用牛繁殖農家13戸と公共牧場1ヶ所が建設された。この公共牧場は、13戸の繁殖農家から生産される雄仔牛を6月令以降20ヶ月ないし24ヶ月令まで飼養し、肥育仕上げ後出荷することとして計画されているが、出荷頭数は、全体で、繁殖素牛 286 頭、肥育牛 364 頭を見込んでおります。なお事業参加農家は町内在住者が大半で、過去においてはホル牡の肥育と一部農家が搾乳の経験があるだけで、肉専用種(アバーディン・アングス)の繁殖については全たくの初心者である。なお、平均年齢は37才で将来に対する経営意欲は旺盛である。

## 2. 事業の概要

昭和49年に基本計画が樹立され、昭和50年度に着工、4ヶ年の歳月をかけ、昭和53年度に全事業が完成された。

### (1) 全体事業

別表1による。

### (2) 1戸当り施設の規模

- 畜舎タイプ……ルーズバーン方式 410 m<sup>2</sup>
- サイロ………気密サイロ 722.5 m<sup>3</sup>サイロアンローダーボトム式
- 粗飼料給飼……自動給飼機
- 糞尿処理………スラリー方式 621 m<sup>3</sup>
- パドック施設…アスファルト舗装 571.2 m<sup>2</sup>

(注) 畜舎平面図1による。

別表1 全体事業

## 大雪区域畜産基地建設事業工事概要

事業種目		造成及び構造、規格					数量	事業費
基本施設	草地造成	個人造成 297.27 ha 公共 346.42					643.71 ha	431,074千円
	道路整備	1号幹線 5192 外4本					11,918.3 m	264,241
	施設用地整備	個人13戸 公共1					6.7 ha	49,631
	用排水整備	取水、浄水、2施設 導水、配水、給水 9ヶ所					18,333.4 m	142,636
	林間放牧地整備	隔障物 322 ha (7牧区) 敷地造成 2ヶ所					隔障物 24,193.7 m	16,321
小計								903,903
農業用施設	経営施設整備	畜舎 個人13棟 公共2棟					15棟 7,283.14 m <sup>2</sup>	1,352,145
		バドック個人13 公共1 アスファルト舗装					8,150.3 m <sup>2</sup>	
		飼料貯蔵施設16 バンカーサイロ2 気密式14					16基	
		ふん尿処理施設 スラリー方式14 堆肥盤尿溜式2					16	
		農機具庫個人4棟公共1鉄骨平家					6棟 874.1 m <sup>2</sup>	
		牛衡機					14台	
		看視舎 個人5棟 公共3棟 木造平家 60.59 m <sup>2</sup>					8棟 484.72 m <sup>2</sup>	
		隔障物個人 32,128.8 公共 71,723					73,852.1 m	
	三相電気導入					7.8 km	3,414	
小計								1,440,006
農機具導入	菊水	旭ヶ丘	下高台	越路	公共			
	トラクター	2	2	2	2	2	10台	
	フォレンジャリアー	3	2	1	1	2	9	
	ハーベスタ	1	1	1	0	1	4	
	スラリスプレッター	2	2	1	2	1	8	190,712
	スラリーローリ	1	0	0	0	1	2	
	その他作業機	7	8	4	5	12	36	
小計		16	15	9	10	19	69台	190,712
合計								2,534,621

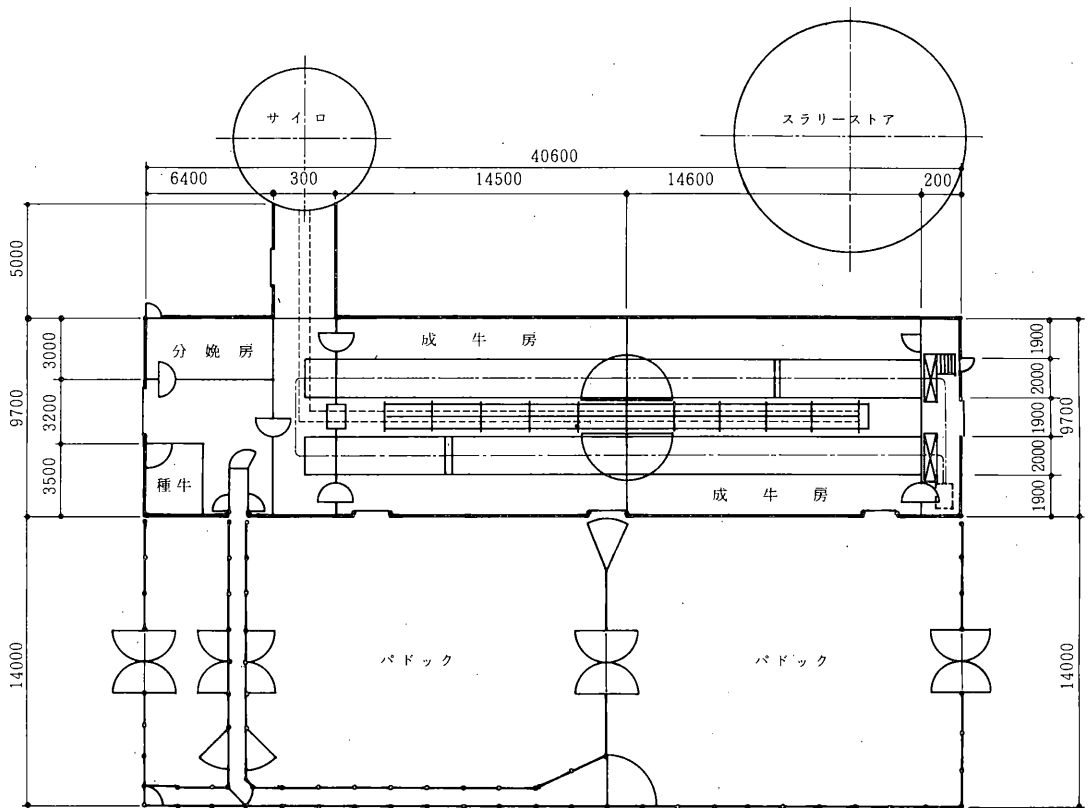


図1 畜舎平面図

### 3. 家畜の導入

家畜の導入は昭和51年度より始まり昭和53年度をもって、繁殖素牛910頭、種牛21頭の導入が完了した。導入先は北アメリカ（51年）カナダ（52年、53年）より輸入を行ったが年度別導入状況は次の通りとなっている。

別表2 アバディーンアンガス種導入実績

区分 導入年度	繁殖牝牛		種牛		計	
	国外	国内	国外	国内	国外	国内
51年度	150	50		4	150	54
52年度	305	50	4	5	309	55
53年度	305	50	5	3	310	53
合計	760	150	9	12	769	162

#### 4. 経営上から見た諸問題

昭和51年12月に最初の200頭が導入され4戸の経営が始まりその後52年、53年で、全事業が完了致しましたが、現段階までの経営は1戸当り50頭で、全施設がフル回転をしていない状況であり、各施設等の問題点提起にはならないものと考えておりますが、約2年間にわたる経営をふり返って見ると、

(1) 施設については、冬期間の結露及びパドックの除雪が問題となっている。結露対策としては、牛舎を開放することにより解決ははかれるが、開放することにより水道施設及びバーンスクレッパーなどふん尿処理施設が凍結することとなり、開放は困難である。

また、パドック内の除雪も人力では困難であり、堆積されたふん尿混じりの氷雪が融雪期に泥濘化しパドックが使用出来ない状況にある。

(2) 草地が施設より遠隔地にあることにより、草の運搬とふん尿の還元に大きな障害となっている。さらに高台地（海拔600～650m）のため融雪がおそく収量が計画通り（4.5～5.0t）あがらない状況にある。

(3) 牛の飼養管理上の問題としては、初めての繁殖であり、経験不足に加えて初産のため難産が多く、さらに仔牛の下痢などによる事故率は17～18%の高率となっている。難産の原因は仔牛が比較的大きい（35～40kg）場合が多く、これは運動不足などが考えられる。

(4) その他の問題としては洋種の位置付が不備であり、消流面で不安をいただいていることに加えて、計画時点と実績において、かなりのズレ（事業費など）があり経営面での不安が残っている。

以上、おまかに問題点を羅列したので、諸先生方の卒直なご批評を賜り、今後の経営に役だてたいと考えている次第である。